



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2008-2009



ガバナーメッセージ

“ロータリー財団はロータリーの花”

ロータリー財団月間によせて

国際ロータリー第2710地区

ガバナー 諏訪 昭 登

ロータリー財団は1917年、ジョージア州アトランタでの国際大会で、RI会長アーチ・クランプが発案して提起されました。国際理解と親善を目的として、特に世界でよいことをしようというこの基金は、必ずしも順調に発展したわけではありません。当時のロータリークラブ国際連合会の目的に対して、理論的に矛盾があったことからです。翌年とにかくカンザス・シティRCの26ドル50セントが最初の寄付として基金となりました。ポール・ハリスの寛容ある擁護論もあって、1928年に「ロータリー財団」と命名され、1931年に信託制度導入のもと発足しました。しかしながら、まもなく第二次世界大戦前の緊張からやがて大戦突入という事態となったので、ポール・ハリスの率先推進意志も実らず終戦を迎えました。1947年1月27日、ポール・ハリス死去により、遺志であるロータリー運動の国際性を高める方向づけの一つとして、ロータリー財団の大々的募金活動が始まり、ポール・ハリス記念基金として翌年7月までに130万ドルの寄付が集まりました。さらに37万ドルの寄付金をもとに最初の国際奨学金制度が18名の大学院生の派遣によって発足しました。元国連難民高等弁務官の緒方貞子氏は翌年の第二期生でありました。1983年には、米国イリノイ州の法令下に非営利財団法人「国際ロータリーのロータリー財団」として確立されました。財団の発展はプログラムを次々と開発したことにより、とくに原理的な批判がありながらも大変意義ある活動として理解され発展を続けております。財団制度は基本元本を固定して、その運用利息で事業継続して行くものですが、ロータリー財団は主な寄付金の年次寄付について3年間固定し、その間の運用利息で経費を賄います。そして3年後には元本を二分してWF（世界活動資金）、DDF（地区活動資金）として使い切ろうという制度です。考えて見れば非常に危険なやり方ですが、のちに恒久基金と名づけて基本元本は固定して、その運用利息をWF、DDFに二分して使用するという制

度を実現して対応をしています。使途指定寄付の主なものは、1985年以來の現在ポリオ・プラス寄付ですが、これは随時支出となっています。当地区では寄付目標として、年次寄付1人平均110ドル、恒久基金に1クラブ1人のベネファクター、ポリオ・プラスに1人15ドルを要請して、地域社会や国際社会での教育的、人道的プログラムなどへ暖かい寄付をお願いしています。ロータリー財団独特の寄付受領と活動資金払い出しを考えると、世界のロータリアン一人一人の善意による継続的な寄付が不可欠であることを充分ご理解のうえ、ご協力下さることを衷心よりお願い申し上げます。各クラブでは決して人頭分担金方式で徴収することなく、ロータリー財団委員会がよく会員に財団を説明したうえで、個人別に暖い任意募金をお願いして下さい。私はロータリーは職業奉仕理念が最重要なるものとしてその実践を要請しております。“ロータリーの樹2008”（渡辺RI前理事）では「ロータリーはクラブ奉仕即ち綱領、標語、四つのテストなどを認識した研鑽という根から、水と栄養即ち奉仕の理想がロータリーの根幹というべき職業奉仕の「幹」に入って、その中にある導管を通して「社会奉仕」「国際奉仕」という枝や葉に届き、そしてロータリー財団という「花」を咲かせます。またそれぞれの奉仕活動がすべてお互いに助け合い、励まし合い、相働いて多くの「実」を結びます」と説明されています。ロータリー財団は今、ポリオ撲滅を最優先目標としながら「みんなの財団、私たちの財団」という目標に向けて前進しております。みんなで咲かせようロータリーの花を！

ロータリー財団の使命：ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること。

標語：『世界でよいことをしよう

(Doing good in the world)』